

小林光一郎 解説

『花祭をたづねて 三河北設楽郡 足込』

宮本馨太郎撮影の『花祭をたづねて 三河北設楽郡 足込』は、『花祭 東京三田綱町邸』や『花祭 三河北設楽郡にて』と関連した足込版の花祭の内容となっている。撮影は一九三〇（昭和五年一月四日、場所は足込の花宿が主であり、フィルムの終わりごろには、宮本邸で行われた花祭の実演に関する様子が映されている（後述）。この宮本邸での実演は渋沢邸で一六ミリフィルム撮影用に行われる実演の前に宮本勢助・馨太郎家で執り行われたものである（宮本二〇〇二、一〇三頁）。

内容構成は、字幕「早川孝太郎先生……指導」からはじまり、「花祭をたづねて 美やもとペビーシネマ研究所」製作 宮本馨太郎。」と字幕が続き、中在家の佐々木嘉一郎の入り口の映像から、足込における辻がための様子や花宿の様子などが映され、花祭の祭祀に関わる周辺情報が映されていく。その後、字幕「さかきの舞」以降において、伴鬼ともおにの面形を着ける様子や「五方見」ごほうみ「反閉」へんぱいなどといった祭祀における動作が映される。この祭祀に関する動作の所作に関する撮影は、見物の人々の様子や実際には夜に行われるはずの所作が朝方と考えられる光量の下で行われていること、五印を結ぶ所作を行う場所が縁側のような場所であることなどから、祭祀後、撮影用に改めて動作を行ってもらった可能性が考えられる。また、足込の映像の後、フィルム最終部分にあたる「終り 美やもと……」の字幕以降に、宮本邸において催行された花祭（昭和五年四月一三日）に関わる映像も編集されている。

このように撮影場所は中在家、足込、宮本邸の三カ所であるが、映像における主な撮影地は足込であり、足込における花祭の実質的な映像は字幕「園村足込にて 正月四日―五日」から、字幕「終り 美やもと……」の前までとなっている。

映像内の字幕名一覧と補足説明は以下の通り。

美やもとペビーシネマ研究所／早川孝太郎先生……指導／花祭をたづねて 美やもとペビーシネマ研究所／製作 宮本馨太郎。／三河北設楽郡／中在家 佐々木嘉一郎邸／園村足込にて 正月四日―五日／つちがため／花宿の風景……。／御幣餅、／「せんじ」の入口。／舞戸。／「さかき」の舞。／面形を着ける。／「さかき」五方見の型。／反閉……。五方。／五方を切る……。天地中央／天を切る……。／地を切る……。／中央を切る。／「さかき」役者 神谷徳一氏／「しづめ」の反閉 神谷徳一氏。／逆足（サカアシ）／五印。／終り 美やもと……（小林光一郎）

参考文献

- 小林光一郎「二つの「花祭」——アチック一六ミリフィルム「花祭（綱町邸）」と「花祭（三河北設楽郡）」神奈川大学日本常民文化研究所編『歴史と民俗』第二八号、平凡社、二〇一二。
- 宮本瑞夫「渋沢敬三先生のアチック・ミューゼウムと宮本馨太郎——宮本馨太郎日記抄（一）」『立教女学院短期大学紀要』第三三号、立教女学院短期大学、二〇〇二。